



2026年1月19日発行
■発行責任者／佐藤幸雄 ■編集・制作／(株)プロトリオ
■発行／(株)NGP 東京都港区港南2-12-32 サウスポート品川4F
TEL03(6705)1212

2026

1
月号

news

全国整備工場の皆様へ NGP 組合員 200 抱点がお届けするお役立ち情報

No.418

令和8年 新年のご挨拶

共に築く持続可能な社会——2026年、新たな一步 高品質リユース部品で未来を創るNGP

新年明けましておめでとうございます。
日頃より、NGP日本自動車リサイクル事業協同組合をご支援いただき、誠にありがとうございます。新たな一年を迎えるにあたり、皆さんと共に歩んでいく決意を改めてお伝えいたします。

近年、カーボンニュートラルの達成に向けて、資源を循環させるサーキュラーエコノミーの実現が社会全体で求められています。大量生産・大量消費・大量廃棄を前提とした経済の仕組みから転換し、限りある資源を有効に活かす流れが加速する中、自動車リサイクル業界が果たすべき役割は一層大きくなっています。NGPは皆さまのご協力のもと、適正な自動車リサイクルとリユース部品の提供を通じて、この社会的要請に応え続けてまいります。

その具体的な取り組みの一つが、リユース部品の活用です。リユース部品は、新品部品の製造や資源採掘に伴うCO₂排出を無くし、資源の有効活用にも直結します。環境への配慮を、現実的かつ継続可能な形で実行できる点に、リユース部品の大きな価値があります。

その価値を社会に根付かせるために欠かせないのが「品質」です。私たちが提供するリユース部品の高い品質は、安心してご利用いただけるという信頼につながり、結果としてリユース部品の普及を後押しし、環境負荷の軽減に直結すると考えています。

前年度、NGPのリユース部品をご利用いただいた際に発生したクレーム率は、わずか「0.6%」でした。この数字は、全国の組合員が日々の業務の中で品質向上に真摯に向き合い、努力を積み重ねてきた結果

にほかなりません。

NGPは創設以来、「お客様第一」を掲げ続けてきました。品質向上に力を注ぐのは、すべてお客様があつてこそだと考えているからです。NGPのリユース部品を選んでいただきたびに、「この部品を使ってよかったです」と感じていただけること。その積み重ねこそが、信頼を生み、次の利用につながり、リユース部品の価値を社会に広げていく原動力になると確信しています。

2026年もNGPは、高品質なリユース部品の安定供給を通じて、環境負荷の低減と持続可能な社会の実現に貢献してまいります。関係する皆さまのご期待に応えられる

よう、品質の向上とサービスの改善に、引き続き取り組んでまいります。

本年が皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますよう心より祈念申し上げますとともに、変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和8年 元旦

NGP日本自動車
リサイクル事業協同組合

理事長 小林信夫



NGPのサーキュラーエコノミーモデル

持続可能な社会の実現に向けて 広範な社会課題に対する解決策を提案

環境問題をはじめとした社会課題の解決へ向けた各種情報の発信を目的とする「SDGs Week EXPO2025」が12月10～12日の3日間、東京ビッグサイト（東京都江東区）で開催されました。

環境に関する総合展示会「エコプロ（第27回）」をはじめ、脱炭素化に貢献するテクノロジーやソリューションを紹介する

「カーボンニュートラルテック（第5回）、気象災害や地震・津波などの自然災害対策に関する情報を発信する「自然災害対策展（第7回）」、インフラの維持管理や老朽化対策などをテーマとする「社会インフラテック（第8回）」、経済成長と環境負荷低減の同時実現を目指すサーキュラーエコノミー（循環経済）の推進を目的とした「サー

キュラーパートナーシップEXPO（第2回）」の5つの展示会を通じて、様々な視点から持続可能な社会の実現を目指した製品・サービス、取り組みなどを紹介しました。

3日間合計の来場者数は、SDGs Week EXPO2025全体で59,873人でした。



イーアイアイ

使用済み飲料容器を素材ごとに自動で選別するシステムや、様々な廃棄物の集合体の中からリチウムイオンバッテリーなど特定の対象物をピックアップする技術の紹介を通じて、AIの活用による廃棄物処理の効率化を提案



AGC

ガラス製造時の溶解炉でアンモニアや水素を燃料として使用することでCO₂排出量を削減する技術や、製造時に発生するCO₂を回収してメタノールに変換する仕組み、廃ガラスをガラス原料としてリサイクルする取り組みなどを紹介した



クリーン・オーシャン・マテリアル・アライアンス (CLOMA)

高い人口密度と大量の廃棄物が発生する大都市での資源循環システム構築を目的とした、廃プラスチックに対するケミカルリサイクルとマテリアルリサイクルの実証実験の内容を紹介した



KOBELCOグループ

環境負荷低減に寄与する水素燃料電池ショベルや水素の供給及び活用に関する技術、作業者の安全確保と事業者の生産性向上に寄与する重機遠隔操作システムなど、各種社会課題の解決につながる製品・サービスを提案



自動車リサイクル促進センター

自動車リサイクルの流れなどを学習するクイズラリーやフロントガラスの製造過程で出る廃材から作られた絵の具を使用するワークショップなどを通じて、自動車リサイクル業界の取り組みを紹介



トヨタエルアンドエフ東京

市場投入済みの燃料電池フォークリフトのほか、トヨタ車体が開発した杉間伐材配合の樹脂素材・TABWDを活用したフォークリフトや木材を活用した自動搬送機の各コンセプトモデルなどを展示



日本製鉄グループ

燃料電池車への水素補充を目的とした水素ステーションに採用されている高圧水素用ステンレス鋼や車両軽量化に貢献する高張力鋼板など、環境負荷低減につながる各種技術・製品・活動を紹介した



日本有機資源協会

生物由来の資源（バイオマス）を利用した商品に表示できるバイオマスマーケ及び同マークを取得した各種製品を紹介し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成につながるバイオマスの活用を訴求した



ノリタケ

大気中のCO₂を回収するSUPCA（サブカ）を出品。柔軟性があり様々な形状に加工が可能であり、従来のビーズ状の吸着材と比較して、CO₂の吸収が早く、回収に必要なエネルギー消費量が少ないという特徴をPRした

幅広い年齢層が訪れるイベントを通じて、 サーキュラーエコノミーの実現に向けた 自動車リサイクル業界の取り組みをPR

NGP協同組合は、東京ビッグサイト（東京都江東区）で12月10～12日の3日間開催された「SDGs Week EXPO2025」に出展しました。

今回のブースは、昨年に引き続き「サーキュラーエコノミー（循環型経済）」という概念を広く知ってもらうことを目的として構成しました。

ブース内に用意したシアタールームで10分弱の動画を流し、サーキュラーエコノミーの考え方についてていねいに説明するとともに、自動車リサイクル業界におけるリサイクル、リユースの取り組みを紹介しました。そして動画の中で、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラル、NGPの取り組みに関するクイズを出題することで、来場者のさらなる理解を促しています。

ブース全体のデザインは、使用済み自動車買い取りサービス“廃車王”を前面に出すことで、同ブランドの認知度向上につなげています。またブース内に、自動車リサイクル部品の実物やエアバッグとシートベルトからアップサイクルした「薪バッグ」、自動車の取扱説明書からアップサイクルした「環境教育ノート」、取扱説明書と食品加工業界における産業廃棄物である“梅の種”を掛け合わせて製作した「炭工コクッ

ク」などを展示することで、自動車リサイクル業界及びNGPの取り組みをPRしました。

杉之間大和副理事長は「子どもたちをはじめとした来場者の皆さんに、“サーキュラーエコノミー”という考え方を知つてもらうことを目的として、ブースを設計しました。環境問題の深刻さが増す中で、資源を循環させることで廃棄物を削減するサーキュラーエコノミーの実現が求められています。サーキュラーエコノミーが求められている背景と自動車リサイクル業界の役割を多くの人に知つてもらいたいと考えています」と、今回の出展コンセプトについて説明しています。

サステナブル総務委員会の岸本恭秀委員

長は「エコプロ出展の最大の目的は、ブースを訪れた皆さんにサーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルについての理解を深めてもらうことです。多くの小中学生が見学に訪れるため、上映する説明動画は子どもたちにも分かりやすい内容となるよう心がけました。一方、NGPブースには子どもたちはもちろん、大人の方にも多数ご来場いただきました。年齢を問わず、動画や説明を真剣に聞いていたり、自動車リサイクルに関する注目度の高さを感じました」と、エコプロ出展への確かな手応えを感じています。

NGPは今後も各種活動を通じて、サーキュラーエコノミーの実現と業界の認知度向上を目指してまいります。



連日多くの来場者が訪れたNGPブース



杉之間大和副理事長（左）とサステナブル総務委員会・岸本恭秀委員長



シアタールームでは、サーキュラーエコノミー（循環型経済）の概念とその必要性を解説



動画を視聴した来場者へのプレゼントとして用意した使用済み自動車から取り外したエンブレムは、特に子どもたちに大人気

NGP 今月のCO₂削減量



リサイクル部品利用に伴うCO₂削減量
令和7年11月： 1,927t

*自動車リサイクル部品産学共同研究会が、「自動車リサイクル部品による環境負荷低減効果の研究」の結果をもとに、NGPが販売したリユース部品の90品目（左右ある部品を含む115品目）と、リビルト部品の3部品を対象に算出した数値です。



リターナブル梱包材利用に伴うCO₂削減量
令和7年11月： 0.4t

*リターナブル梱包材の利用に伴う削減効果はNGP協同組合独自のCO₂排出量削減の取り組みです。段ボールに代えて、専用梱包材を繰り返し使用すること前提に削減効果を算出しております。

NGP日本自動車リサイクル事業協同組合は、環境省が主催する「第13回グッドライフアワード」において、「地域の記憶を未来へつなぐ-香川県豊島の環境再活動と環境教育の挑戦-」をテーマに「実行委員会特別賞 環境ひとつづくり賞」を受賞しました。NGPが豊島での環境保全・再活動に対して表彰を受けるのは、今回が初めてとなります。

グッドライフアワードとは、環境省が提唱する地域循環共生圏の理念を具現化する取り組みを表彰し、認知を広げることを目的としたプロジェクトです。

受賞活動の概要

(豊島環境保全・再活動について)

日本最大級の産業廃棄物不法投棄事件である「豊島事件」において、不法投棄された廃棄物の多くは自動車由来でした。NGPは自動車リサイクル事業者としてこの問題に向き合い、2019年より瀬戸内オーリープ基金と岡山大学の取り組みに参画し、自然の回復と次世代への学びを柱に活動を開始しました。地域住民と力を合わせ、森の再生や環境教育に継続的に取り組んでいます。

2025年12月6日にはスクランブルホール（東京都渋谷区）で表彰式が開催され、NGPからは谷洋紀事務局長が出席しました。NGPは、引き続き豊島の植生回復活動に取り組むとともに、次世

代の環境教育や地域再生と結びつけ、継続的な価値を生む活動として発展させていきます。



第13回 グッド
ライフアワー
ド・竹ヶ原啓介
実行委員(左)
とNGP・谷洋
紀事務局長



NGP、高校生の企業訪問受け入れ

サーキュラーエコノミーの必要性と自動車リサイクル業界の取り組みを紹介

NGPは12月15日、SDGsの取り組みについて学習することを目的とした長崎県立佐世保西高等学校（長崎県佐世保市）2年生8人の企業訪問を受け入れました。

まず、サーキュラーエコノミーが求められる背景や、自動車リサイクルの一連の流れと実際の作業内容について、動画を交えて説明しました。その上で、使用済み自動車から生産したリサイクルパッソやアップサイクルした薪バッグなどの実物を示しながら、NGPの取り組みを紹介しました。

高校生からは、「リサイクルの工程で

一番手間がかかることは?」、「海外のリサイクル技術や制度の違いで驚いたことは?」、「自動車リサイクルの仕事に求められる能力は?」などの質問が寄せられ、自動車リサイクルに関する関心の高さが



うかがえました。

NGPは引き続き自動車リサイクル事業を通じて、各種教育支援活動に取り組んでまいります。

